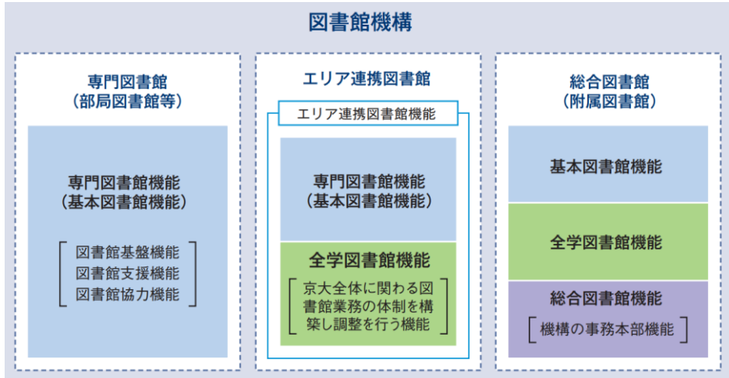
# 京都大学図書館機構 概要
## Kyoto University Library Network

左から桂図書館、附属図書館、吉田南総合図書館

## 機能と体制

京都大学図書館機構は、京都大学における学術研究基盤の整備、全学的事業の推進又は支援、その他全学に係る業務を実施するための全学機能組織です。総合図書館、エリア連携図書館、専門図書館の機能を持つ個々の図書館から構成され、これらの図書館がそれぞれ機能を高めながら、連携協力を強化することにより、図書館機構の機能が実現されます。




図書館機構将来構想
www.kulib.kyoto-u.ac.jp/about/1385163

## 基本理念と目標

京都大学図書館機構は、京都大学の基本理念に基づき、世界最高水準の教育・研究拠点に相応しい学術情報基盤としての役割を担うことを使命とする。将来にわたって、京都大学における教育・研究活動を支援し、かつ国内外の学術コミュニティに貢献するために、人類の知的資産である学術情報資源や新たに生み出される知的成果を不断に収集、整理、保存し、関連する情報を発信するとともに、常に最上質の先進的情報サービスを研究開発し、提供する。
そのため、京都大学図書館機構は以下の目標の実現をめざす。

1. 京都大学図書館機構は、全学の図書館機能を十全に発揮して教育・研究を支援するために、学生・教職員のニーズを把握し、それに応えることを最優先する。
2. 学術情報基盤としてのコレクションおよび情報サービス体制を構築するために、学術情報を適切に選定、収集、整理し、必要な研究開発を行い、それらへの最善のアクセスを提供する。
3. 京都大学が日々創造する世界的に卓越した知的成果の蓄積・発信を行う。
4. 京都大学が保有する人類の知的資産を将来にわたって利用できるような保存管理体制を整備する。
5. 学術情報活用のために質の高い利用者支援システムを構築する。
6. 図書館利用者が学術情報を有効かつ快適に活用できるように、全ての図書館スタッフのスキルおよびモチベーションの向上と、設備、施設の充実を図る。
7. 京都大学図書館機構を構成する組織は、相互に、また関連する学内組織との間の協力関係を強化する。
8. 国内外の図書館と連携し、相互協力するとともに、社会と地域に貢献する。

## 図書館・室　一覧

図書館機構アクセス
www.kulib.kyoto-u.ac.jp/map/12016

### 吉田キャンパス

本部構内
附属図書館【**総合図書館**】
文学研究科図書館
教育学部図書室
法学部図書室
経済学研究科・経済学部図書室
工学研究科・工学部北図書室
工学研究科・工学部南図書室
人文科学研究所図書室
エネルギー科学研究科図書室
情報学研究科図書室
地球環境学堂図書室
経済研究所図書室
アジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室

吉田南構内
吉田南総合図書館【**エリア連携図書館**】

医学部・薬学部・病院構内
医学図書館
医・人間健康科学系図書室（医学図書館分室）
薬学研究科・薬学部図書室
アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ専攻図書室
東南アジア地域研究研究所図書室

北部構内
理学部中央図書室
理学研究科
　数学教室図書室 / 物理学教室図書室
　宇宙物理学教室図書室
　地球惑星科学専攻図書室 / 化学図書室
　生物科学図書室
農学部図書室
農・生物資源経済学専攻司書室
フィールド科学教育研究センター森林系図書室
人文情報学創新センター図書室
基礎物理学研究所図書室
数理解析研究所図書室

### 桂キャンパス

桂図書館【**エリア連携図書館**】

### 宇治キャンパス

附属図書館宇治分館

### その他のキャンパス

複合原子力科学研究所図書室
犬山キャンパス図書室
生態学研究センター図書室
フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所図書室

## 沿革

| | | |
|---|---|---|
| 1897年 | 6月 | 京都帝国大学創立、附属図書館を設置 |
| 1984年 | 4月 | 閲覧システムを導入（業務のコンピュータ化を開始） |
| 1985年 | 4月 | 調査研究室を設置（1996年研究開発室に改組） |
| 1996年 | 6月 | 『今昔物語集（鈴鹿本）』、国宝に指定 |
| 2005年 | 4月 | 京都大学図書館機構を発足 |
| 2006年 | 6月 | 京都大学学術情報リポジトリを試験公開（10月から正式公開） |
| 2009年 | 12月 | 「京都大学図書館機構将来構想」を策定 |
| 2014年 | 4月 | 附属図書館にラーニング・コモンズを設置 |
| 2015年 | 4月 | 京都大学オープンアクセス方針を採択 |
| 2017年 | 5月 | 吉田南総合図書館をエリア連携図書館に指定 |
| | 9月 | 京都大学貴重資料デジタルアーカイブを試験公開（12月から正式公開） |
| 2018年 | 2月 | 桂図書館をエリア連携図書館に指定（2020年4月開館） |
| 2020年 | 2月 | 「京都大学図書館機構将来構想2020-2027」を策定 |
| | 4-6月 | 「オープンアクセス推進事業（京都大学重点戦略アクションプラン）」が令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞科学技術振興部門）、令和2年度国立大学図書館協会協会賞を受賞 |
| 2024年 | 4月 | 情報環境機構データ運用支援基盤センターとの連携協力開始 |

図書館機構活動報告
www.kulib.kyoto-u.ac.jp/about/1400746

図書館機構統計
www.kulib.kyoto-u.ac.jp/about/1401282

図書館機構ウェブサイト
www.kulib.kyoto-u.ac.jp

編集・発行: 京都大学図書館機構, 2026年10月
〒606-8501 京都市左京区吉田本町 / TEL 075-753-2691

# オープンアクセスの推進と研究活動支援

### オープンアクセスの推進

京都大学は2015年4月に「京都大学オープンアクセス方針」を採択し、教員が執筆した学術論文等の研究・教育成果をインターネット上で公開することを原則として教員の義務としました。続いて2020年3月に「京都大学研究データ管理・公開ポリシー」を策定し、京都大学の研究者が研究データを管理・保存・公開するための指針となる原則を示しました。2024年度からは図書館機構、情報環境機構、総合研究推進本部(KURA)で協働し、研究データ管理に関する研究者からの問い合わせに対するワンストップ窓口を運用するなど、研究者の研究のライフサイクルに沿った支援を行っています。

### KURENAIによる公開支援

2026年10月に運用開始から20周年を迎えた京都大学学術情報リポジトリ「KURENAI」は、京都大学の研究・教育成果のオープンアクセスを実現するプラットフォームです。年間約6,000件のコンテンツ(2025年度:学術雑誌論文3,200件、紀要130誌1,300件、学位論文850件、研究データ50件ほか／いずれも概数)を公開し、コンテンツ累計公開数は約25万件に達しています。

### オープンアクセス出版支援

図書館機構では、一部の学術出版社との契約において、論文投稿料(APC)と電子ジャーナル購読料を包括した転換契約を導入しています。この契約により、本学に所属する著者が対象ジャーナルに投稿した論文をオープンアクセスにする際に、APCの割引を適用し、負担を軽減しています。

京都大学におけるオープンアクセス支援
www.kulib.kyoto-u.ac.jp/openaccess/1404035

京都大学学術情報リポジトリ KURENAI
repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/home

# 学修・教育支援の推進

図書館機構は、学部・研究科、国際高等教育院と連携・協力し、学生の多様な学びと対話を根幹とした自学自習を支援しています。特に、本学の教育研究インフラの高度化のため、文献、資料等の膨大な知の集積と調和させつつ、デジタル化・グローバル化時代に相応しい知識・情報基盤としての図書館機能の整備に取り組んでいます。

### 多様な学修スタイルに対応する自学自習の場の整備

オンライン授業や就職活動でのオンライン面接、ミーティングなど、様々な学修スタイルや活動の場として、附属図書館に個室ブース、吉田南総合図書館にライブラリー・コモンズ東/西を開設しました。附属図書館ラーニング・コモンズと合わせて、利用者の学修スタイルに応じて活発に利用されています。

### 自学自習環境および自学自習コンテンツの整備

学習・研究活動のフローや対象者ごとに様々な支援コンテンツを用意しています。各コンテンツの対象レベル(京大図書館 最強ユーザへのルートマップ)を参考に、学生自身が学習・研究段階にあったコンテンツを選び活用することができます。またYouTubeチャンネル「京大図書館きこうチャンネル」を開設するなど(2023年9月)、e-learning教材の整備にも力を入れています。

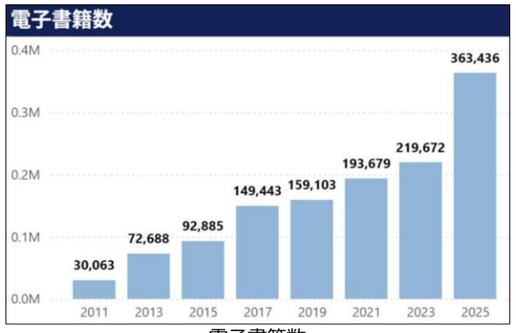
附属図書館ラーニング・コモンズ

きこうチャンネル

自学自習コンテンツ
www.kulib.kyoto-u.ac.jp/support/1399524

# 豊富な資料とアクセス環境の整備

図書館機構は、豊富な蔵書(約747万冊)に加え、多数の電子書籍(約36万冊)や電子ジャーナル(約8万タイトル)、各種データベース(約110点)を契約・提供し、研究や学習に必要な資料を幅広く揃えています。
特に電子書籍は学生ニーズをより的確に反映するため、2025年度から、利用統計や利用実績に基づき、附属図書館およびエリア連携図書館である吉田南総合図書館・桂図書館の3館において、共同で選書を行っています。
これらの多様な資料へ効率的にアクセスできるよう、蔵書検索システム(KULINE)やディスカバリーサービスを導入しており、紙媒体・電子媒体を問わず、また、学内・学外問わず、横断的に情報を探し出し、スムーズにアクセスできるような環境構築に努めています。




電子書籍数
(参照:データから見る京都大学 アカウンタビリティレポート2026)

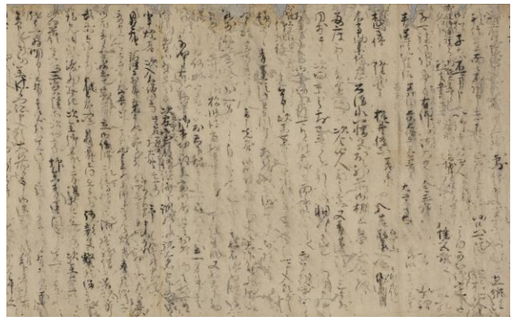
# 特色ある蔵書とその発信

京都大学の図書館ではそれぞれの強みや特色を活かした蔵書構築を行っています。中でも、国宝『今昔物語集(鈴鹿本)』(附属図書館所蔵)、重要文化財『大日本史編纂記録』(文学研究科所蔵)、『ジョサイア・コンドル建築図面』(桂図書館所蔵)、『建内記』(附属図書館所蔵)をはじめとする貴重な資料群については、後世に継承するため、修復と適切な保存体制の整備を行っています。

『天正遣欧使節肖像画』(附属図書館所蔵)

### KURareによる貴重資料デジタル画像の公開

京都大学貴重資料デジタルアーカイブ「KURare」は、2017年9月に公開したデジタル画像公開システムです。学術・文化の発展に貢献するため、京都大学が所蔵する古典籍・古文書等の貴重な学術資料を電子化してインターネット上で公開しています。国宝や重要文化財をはじめ、これまでに電子化した資料は2万7千タイトル以上、230万画像以上となり、国内でも有数の規模を誇ります。公開画像の多くは、原資料所蔵館を明示することにより自由に二次利用することができます。



『建内記』(附属図書館所蔵／重要文化財)部分

『はちかつき』(吉田南総合図書館所蔵)部分

『Flora Japonica』(理学研究科所蔵)部分

京都大学貴重資料デジタルアーカイブ
KURare
rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp

主要コレクション
www.kulib.kyoto-u.ac.jp/collections/12502